

協力していただく先生方（ファシリテーター、スピーカーなど）のご紹介
（あいうえお順）

生徒対象	お名前・プロフィール	コメント
	<p>磯崎道佳 (美術家・アーティスト) 様々な表現形態を通じて、誰もが持つ好奇心を引き出し、新しい視点を発見する場を制作・発表している。主なプロジェクトに、面識のない者同士による手紙の交換を目的とした「パラシュートとマキオ」。参加者と巨大バルーンを制作する「DOME Project」など。</p>	<p>私は北海道ニセコ町に住んでいる美術家です。今回、みなさんと一緒に「未来」について対話しながら大きなドーム型のバルーンを作ります。最後に中に入って遊ぶこともできます。未来をあなたたちの想像力で捕まえましょう</p>
	<p>小原一真(フォトジャーナリスト) 1985年、岩手県生まれ。KEYSTONE (スイス) パートナーフォトグラファー。宇都宮大学国際学部にて社会学を専攻。金融機関で働く傍ら、DAYS JAPAN フォトジャーナリスト学校にて学ぶ。東日本大震災直後に会社を退職、3月16日から現地での取材を開始。2011年8月に行った福島第一原発での取材はヨーロッパ各国の新聞、テレビに掲載された。2012年3月10日、スイスのラースミュラーパブリッシャーズより、東日本大震災、福島第一原発事故の取材をまとめた「Reset Beyond Fukushima-福島への彼方に」を出版。</p>	<p>私も東日本大震災によって大きく人生が変わった一人です。地震、津波、そして原発事故は私たちに大きな苦しみを与え続けていますが、それとともに沢山の出会いと新たな可能性を教えてくださいました。これから自分たちの古里をよりよい場所に発展させるためにも、自分たちに誇りを持つ為にも、より広い世界を見て、ともに頑張ってください。皆様と会えるのを楽しみにしております。</p>
	<p>片貝英行 (NPO 法人キッズドア 事務局長 兼 復興支援担当) 中央大学法学部法律学科を卒業後、システム開発会社で公共システムの開発と運用支援を担当、企業向け研修会社にて階層別研修（新人～管理職）の他、全社員向けCSR研修の企画・教材開発会社を担当。人事コンサルティング会社を経て、2010年5月から現職。2012年4月から東北大学教育学部（研究生）で教育行政学等を学習・研究中。</p>	<p>将来に選べる選択肢を1つでも増やせるように、できることは何でもしたいと思っています。やりたい！チャンスだ！と思ったらやりましょう。「幸運の女神には、前髪しかない」と言われています。見過ごしてしまうと後ろ髪は無いのでつかめません。自分は何をやりたいのかを持っていれば、チャンスは巡ってきます。強がったり、恥ずかしがったり、言い訳したり、逃げたり、周りに振り回されている暇はありません。一瞬一瞬を大事にするために、本音でぶつかって欲しいと思います。</p>
	<p>北本英光 (株式会社 電通 コミュニケーションデザイナー / アトリエリスト) 世界赤十字デー生まれ。「よりよい世界のために、コミュニケーションができること」をテーマに、企業の広告キャンペーンやPR/情報戦略などをプロデュース。大学在学中から学習環境デザインを学び、子どもたちの想像力開発を目的としたワークショップや展覧会を多数手がける。2012年3月11日から、被災地の“こども記者”による「石巻日日こども新聞」を発行。</p>	<p>はじめまして、こんにちは。東北復興にかけるみなさんの強い思いやアイデアは、より多くの人たちのこころを動かすことでしょう。全力でお手伝いします。</p>



吉川 哲也（特定非営利活動法人ジュニアエコノミーカレッジ 理事長）

2002年より会津若松商工会議所青年部理事としてジュニアエコノミーカレッジのカリキュラム構築に携わる。2011年11月、非営利特定活動法人ジュニアエコノミーカレッジ理事長に就任。

夢を実現するために必要なお金について考えてみましょう。たくさんの人たちに協力してもらうにはどうしたらいいと思いますか？みなさんの情熱に期待しています。



真田 秀信（ユニクロ・フランス 社長）

1972年生まれ。95年、(株)ファーストリテイリングに入社。店長などを経験した後、2002年より海外事業に携わる。イギリス進出、NYソーホーの旗艦店プロジェクトを経て、2009年よりユニクロ・フランスCOO。同年10月、パリオペラ店のオープニングを成功させ、現在に至る。

皆さんの夢を2014年にパリで実現していたくために、パリでの現実、パリで見せる日本などをユニクロがパリに進出した経験などを参考にさせていただければと思います。これを元に、2014年に向けて着実に準備をしていきましょう！



須藤 シンジ（有限会社フジヤマストア、ネクスタイド・エヴォリューション 代表 NPO法人ピープルデザイン研究所代表理事）

1963年東京生まれ。有限会社フジヤマストア、NEXTIDEVOLUTION（ネクスタイド・エヴォリューション）代表。NPO法人ピープルデザイン研究所代表理事。

大学卒業後マルイに入社。宣伝、バイヤー、店次長などを歴任。次男が脳性麻痺で出生し、以来障害児の親として現行の福祉の世界のジミさを実感。ボランティア活動等に参加しながら、自身が能動的に起こせる活動の切り口を模索。2000年に独立し、マーケティングコンサルティング会社フジヤマストアを設立。商業施設をはじめとする多業種のブランディングディレクション（コンセプト・コミュニケーションプラン）、研修、企画・運営を手がけている。

2002年にソーシャルプロジェクトNEXTIDEVOLUTION（ネクスタイド・エヴォリューション）を開始。世界のトップクリエイターとのコラボレーションで、「意識のバリアフリー」をメッセージする活動を展開中。また2010年からは、従来型の福祉的なアプローチと一線を画す「PEOPLE DESIGN(ピープルデザイン)」という新たな概念を立ち上げ、障害の有無を問わずハイセンスに着こなせるアイテムや、障害者を街に呼び込む為の各種イベントをプロデュースしている。2011年からは慶應義塾大学商学部をはじめ、オランダのデルフト大学、デザイン・ファッション専門学校との取り組みを強化。近年国内外の教育関連機関から注目されている。

人は希望を失った時、初めて「新しいチカラ」を授かるのではないかとボクは考えています。「人に希望を与えるチカラ」です。新しいニッポンを皆さんと創っていくことにワクワクしています。



榎木 泰西（テレビマンユニオン・プロデューサー）

早稲田大学卒業後、1986年テレビマンユニオンに入社。「地球ZIGZAG」「世界ウルルン滞在記」など数々のTV番組を演出・プロデュース。現在「情熱大陸」「NHKスペシャル」「ハイビジョン特集」などのドキュメンタリー番組をてがける。

東北には世界に誇れる伝統が、文化が、人情があります。みんなで力を合わせて、勇気を持ってアピールしましょう！



服部 祐子

1993年にパリで独力で「日仏文化センター・エスパスハットリ」を設立し、美術工芸、演劇、音楽を含む様々な分野で日本文化を紹介する事業を展開。

長年の仏在住の経験を生かした主要関係者との人的ネットワークによってVJC東北地方連帯事業の実現などフランスにおける訪日誘致活動も活発に行う。

2003年より21世紀を担う世界の子供たちの平和を願い、異文化相互理解の必要性を問う「鯉のぼり・世界の子供の日」と題する国際的催しをユネスコ共催の下に開催。

東北文化の豊かさを世界にどう発信するか、皆さんの持つ創造性の豊かさとパワーこそが東北復興の、そして東北と世界を直結びつける大きな原動力だと私は思います。世界の中の「東北の未来」を皆さんと一緒に考えましょう。



松本 紘 (京都大学総長)

1942年生まれ。奈良県出身。工学博士。京都大学卒業後、京都大学教授、生存圏研究所長、理事・副学長などを経て2008年総長就任。学外では、国際電波科学連合会長、内閣府関係の委員等を歴任。ガガーリンメダル(ロシア)、紫綬褒章、Booker Gold Medal (USA)など国内外の賞を受賞。多数の学術論文のほか、著書に「宇宙太陽光発電所」など。

ここに来ているみんなは、意欲があって偉い！
意欲さえあれば人生なんとかなるものです。
私の経験をお話ししてみましょう



三浦 浩喜 (福島大学教授)

福島生まれの福島育ち。専門は美術教育学と文化活動論。約100人の学生が3ヶ月にわたって子どもたちと企画・実践する「自然体験実習」などを開催。

大震災以来、ずっと学生たちとボランティア活動をしてきました。子どもたちは皆元気ですが、とてもがまんして生活しているなど感じています。2012年3月26日を「子ども復興スタートの日」にして、苦しさ・悲しさに耐えてきた力を、未来をつくる力に変えていきましょう！！



箕輪 憲良 (Yahoo! JAPAN ヤフー株式会社 事業戦略統括本部)

ヤフー入社後、検索などのマーケティングを担当
東日本大震災時に、社会貢献担当として寄付やNPO支援などを実施
現在、復興支援や教育など、社会課題解決をミッションに持つ

みんな、この世の中、今のままでいいと思う？？
もし、「変わったほうがいい」と思うことがあるなら
まず、自分を変えちゃおう
そして、「コレだ！」と思ったことは世の中に発信していくこと
きっと世界はそこから変わっていくよ



山井綱雄 金春(こんばる)流能楽師
金春流 79 世宗家 金春信高、80 世宗家金春安明に師事。5 歳で初舞台、以来、国内外にて数々の能楽公演に出演。また、啓蒙活動としてメディア出演、他ジャンル芸術家とのコラボレーション、講演多数。

今、日本は大きな分岐点に来ていると思います。「モノ」時代から、「ココロ」の時代へ。そして、今こそ、「日本人が日本人らしく生きる」ことが問われていると思います。そんな日本を、そしてこれからの東北を引っ張っていくのは、貴方達です！「新しい日本人」として、日本を牽引して下さい！そのヒントが、日本古来からの伝統文化にはあると思っています。



吉野晃一 (福島県いわき市立小名浜第一中学校教諭)

福島県いわき市生まれ。美術科教師として、学校内だけでなく地域や美術館と連携したイベント、ワークショップ等の企画制作に携わる。県教育センター(情報教育部)在職中は PC やネットワークを活用した美術教育を研究。

みんなで一つのもので上げていく過程での、本気のぶつかり合い・話し合い(熟議)を楽しみにしています。私自身も本気でぶつかっていきます。その中で得た「力」がみんなの一生の「宝物」「糧」になることを信じています。



和田幸子 (株式会社 電通 CSR コンサルタント)

2009 年電通入社
営業・プランニングを中心に一般的な広告、イベント運営等に関わった後、現在はソーシャル・ソリューション局にて CSR コンサルに携わる。

東北のパワーを世界に発信！味方をたくさん作って、楽しくがんばりましょう！



Lucie Mei Dalby (フリーランス・ジャーナリスト)

パリ近郊で生まれ育つ。33 歳。高校卒業後、有名校ソルボンヌ大学で 4 年間文学を学ぶ。22 歳のころフランスの大手 TV 会社に就職し、インタビューの仕事専門に行う。この経験から、人の話を聴くというスキルを学び、今後もこの仕事を続けるつもりである。現在はフリーランスのジャーナリストとなったことで、様々なチャンネル、作品に関わっており、フランス内外で、報道、ドキュメンタリー、政治、経済、社会問題、また音楽、現代アートなど様々な分野に携わってきた。インタビューの仕事を始めもうすぐ 12 年経つが、まだまだ開拓できる分野が多くあると感じている。

東北スクールに参加できることは、私にとってとても光栄なことです。

皆さんの地域で起こった災害は、世界中の人々に大きなショックを与えました。とくに、日本のことが大好きなフランスにとってはなおさらで、とても他人事とは思えないことでした。

皆さんがどんな困難に立ち向かわなければならなかったのか、私には想像もできません。しかし、皆さんの前に進もうという勇気と決断が、周りのすべての人たちを励ましているのを、すでにひしひしと感じています。みなさんと、会って、私の仕事の経験をご紹介し、それ以外のいろいろなこととお話できるのを楽しみにしています。皆さんも、楽しんでもらえたら嬉しいです。それでは、東北で会いましょう。



Robert Verdier (プラネット・ファイナンス
Non Executive President)

25年にわたる国際金融サービス経験をもち、その期間のほとんどを日本で過ごす。クレディ・リヨネ証券東京支店で1987年から1995年にコーポレートファイナンス部門の長として、BNPパリバ証券東京支店で1995年から2002年にビジネス開発部門の長として勤務。2005年から2009年には、CEOとしてデクシア金融日本部門で勤務。

2011年3月11日の出来事は、人類の歴史で類を見ないものです。あなたたちには、日本と世界のより良い未来のために、この災害を乗り越えることができるということを、世界に示す責任があります。広島原爆から生き延び、世界に認められるブランドを立ち上げた三宅一生、またダンブレインでの悲劇を乗り越えウィンブルドンで決勝戦まで勝ち残ったアンディー・マレーなどが、お手本となるでしょう。

大人対象

お名前・プロフィール

コメント



小野寺雅之 (気仙沼市教育委員会)

気仙沼市本吉町在住。農漁業を営みながら、大谷地区の幼稚園・小学校・中学校が連携する「大谷ハチドリ計画」を指導する。この計画は、地域の豊かな自然を守り、自然に寄り添う地域の暮らしを学びながら、次世代を担う後継者の育成を図っている。昨年の大津波で学校田の「ふゆみずたんぼ」が被災したが、全国から集まったボランティアによって復興。例年通りに子供たちは米作りを行い豊作となった。この取り組みにより、第14回日本水大賞で文部科学大臣賞を受賞する。

いま私たちが生きているこの世界を持続可能な社会に変えていくためには、地域それぞれが自立し、独自の地域づくりを行う必要があります。そのためにも「地域に根ざした教育」がどうあるべきかを本気で考えなければならない。震災は、そのチャンスを与えてくれたのだと私は考えています。



角田直之 (福島県伊達市立梁川中学校教諭)

福島県福島市出身 昭和52年11月27日生まれ 34歳
福島市立野田小学校卒業
福島市立野田中学校卒業
福島県立福島高校卒業
国立福島大学卒業
平成12年4月1日 福島県公立学校教員となる(中学校教員 社会科)
会津若松市立第五中学校勤務
平成15年4月1日 館岩村立館岩中学校へ異動(現在の南会津町立館岩中学校)
平成18年4月1日 伊達市立梁川中学校へ異動

このプロジェクトに参加するという心意気自体が復興の力になると思います。これから様々な困難にぶつかると思います。そのときも「仲間と乗り越える」ことを大切に、一歩ずつ進んでいきましょう。



上月正博 文部科学省大臣官房審議官(生涯学習政策局担当)

1984年、文部省入省。群馬県教育委員会企画室長、欧州連合日本政府代表部一等書記官等を経て、2000年、三重県教育委員会教育次長。その後、初中局特別支援教育課長等を経て、09年より生涯学習政策局政策課長、12年より現職。

東日本大震災と原発事故の被害は甚大でしたが、子ども達が、避難所で率先してボランティア活動を行ったり、マニュアルを越えた行動によって危機を乗り越えたりしたことに、多くの大人が勇気づけられました。

また、震災後、東北では多くの新しい教育の取組が始まりました。OECD 東北スクールはその代表とも言えます。このような「東北発」の未来志向の「創造的復興教育」をスタートするとともに、その活動を日本全国に広げていくことが大切です。

文部科学省も、OECD 東北スクールの取組を応援しています。みなさんの力で東北の創造的な復興を実現させていきましょう。



佐藤 学(大学教師)

1951年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。教育学博士。三重大学教育学部助教授、東京大学教育学部助教授、東京大学教育学研究科教授を経て、現在、学習院大学文学部教授。日本学術会議第一部（人文社会科学）部長。日本教育学会前会長。アメリカ教育学会名誉会員。

学びは人権の中心であり、生きる希望です。この困難を乗り越える「希望の学び」とそれを実現する学校のあり方についてお話ししたいと思います。



田村 学（文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程調査官）

1962年新潟県生まれ。現在、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官。新潟大学教育学部卒業。新潟県の上越市立大手町小学校や上越教育大学附属小学校で生活科・総合的な学習の時間を実践。研究主任などを経験し、カリキュラム開発に取り組む。日本生活科・総合的学習教育学会常任理事。文部科学省の小・中・高等学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）編集担当者。「リニューアル 総合的な学習の時間」（2009、共著）等著書多数。

震災・原発事故からの復興に貢献しようとする OECD 東北スクールで、皆さんは新しいチャレンジを続ける毎日を送っているものと思います。

皆さんがこれから生きて行く21世紀は、変化が激しく、知識を暗記するだけでは生き抜くことが難しい世の中です。自分で主体的に考え、判断し、実行する、人と協同して知識や技能をフル活用して課題を乗り越える力が大切です。私は、そうした想いを持って、昨年、全国の教育の土台となる「学習指導要領」を改訂し、全国がそうした学びに取り組めるよう文部科学省として働きかけをしてきました。

皆さんの OECD 東北スクールでの実践・学びは、きっと東北復興に大きな力をもたらし、また、全国の学校の目指すモデルともなると信じています。一緒に取り組めることをうれしく思います。お会いできるのが楽しみです！



畑中 豊（福島県大熊町立大熊中学校教諭）

公立中学校英語教員。英語教育、特に授業マネジメントに関して講演活動を全国で展開している。執筆にも精力的に取り組む。

故郷を離れて暮らされている大熊町民のみなさんは大きな期待を持って大熊中学校の生徒を見守ってくれています。町民のみなさんが学校へ託される期待の大きさも痛感しています。

未来を切り開く術を探っていた私たちにとって OECD 東北スクールはまさに「渡りに船」でした。

生徒の創造力、感性、個性を引き出し、伸ばしてくれるとともに、私たち指導者にも、どのように生徒に接するべきかを様々な場面で教えてくれているような気がします。

良き友に出会い、互いに磨き合い、高め合う姿を見ているこのプロジェクトに関わってほんとうによかったと思う今日この頃です。「ピンチをチャンスに！どんどん発信！」を合い言葉に様々な教育活動に取り組んでいます。